

第 9 回塩谷広域行政組合ごみ処理検討委員会報告

1. 日 時

平成 18 年 2 月 8 日 (水) 13 時 30 分 ~ 16 時 35 分

2. 場 所

塩谷広域行政組合 1 階大会議室

3. 出席者

職 名	氏 名			
委員長	(学識経験者)	西谷弘子		
副委員長	(さくら市)	菊池崇雄 (欠席)		
委員	(矢板市)	長谷川健	小松高行	
	(さくら市)	関 忠司	天野順子	蛭田幸子
	(塩谷町)	松尾享子	立岡芳司 (欠席)	
	(高根沢町)	飯泉八重子	君島 毅 (欠席)	
	(地元住民代表)	高塩克敏	岡田 明	
	(学識経験者)	小久保行雄		
	(アドバイザー)	今泉繁良	中村祐司	
職員	(矢板市)	高瀬主任		
	(さくら市)	添田副主幹		
	(塩谷町)	狩野課長補佐		
	(高根沢町)	小林主査		
事務局	(塩谷広域行政組合)	高久事務局長	阿久津課長	舘脇副主幹
		磯室長	小堀主幹	印南係長
		片野係長	斉藤主任	
	(日本技術開発)	古田秀雄	中山伸吾	宮澤俊介

4. 議事次第

- 1) 開 会
- 2) あいさつ
- 3) 第 8 回ごみ処理検討委員会検討結果報告
- 4) 報告事項
 - 中間提言書について
- 5) 議 題
 - 一般廃棄物処理基本計画について
 - その他
- 6) 閉 会

5 . 配布資料

- ・資料 1 第 8 回 塩谷広域行政組合 ごみ処理検討委員会報告
- ・資料 2 可燃ごみの処理に係る中間提言書
- ・資料 3 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（案）〔抜粋〕
- ・資料 4-1 リデュース部会 中間まとめ
- ・資料 4-2 リユース・リサイクル部会 中間まとめ

6 . 受領資料

- ・回収された古紙はどこに行く
- ・還元施設に関する提案（中村教授）

7 . 主な意見

1) 一般廃棄物処理基本計画（案）について

- ・ごみの排出量の内訳は、細分された量を提示してほしい。そのデータから、どこの部分をその程度減量できるという検討を行う。
- ・第 2 章では厳しい表記は載せずに、現状を記載する程度とする。
- ・今我々が問題としているのは、可燃ごみをどこまで減らすかということである。また、総ごみ量も減らさなくてはならない。可燃ごみの内訳についての資料を提示してほしい。
- ・市民の努力だけでは、ごみは減らない。事業者の協力も必要である。
- ・塩谷広域においてごみ処理基本計画を策定し、住民に内容を理解してもらうことは基本的なことだが、ここでは詳細まではふれず、基本計画として検討していく。詳細なことについては、実行計画などでふれていくこととする。
- ・焼却方式の部分のみ伝えているが、還元施設、附帯施設についても検討を行っていかなければならない。
- ・ごみ処理の基本方針に、住民に好かれる、地域に活用されるなどポジティブな評価を得る施設とする考えを加え、焼却施設や附帯施設を含めたトータルで還元される施設を目指さなくてはならない。また、住民の人たちにも、今までのごみ処理施設、迷惑施設からの意識の転換を図ってもらうことが必要である。
- ・最終処分量を維持することを目標とされているが、最終処分量は減らしていかなくてはならないのではないかと。減らすことを前提にしないと絵に描いた餅になり、場所も確保できない。
- ・将来ごみ量は、実施計画の努力数値、目標数値となるため個別に数値を出す必要がある。
- ・塩谷広域の数値がもともと全国レベルより良いため地域だからこそ、減量化や資源化がやりやすいのである。
- ・今回の施設は、高根沢町に建設予定の施設であるため、高根沢町の 1 人あたりの原単位を尊重していき、それを 2 市 2 町に展開していくことを考えていくべきではないか。高根沢町が進んでいるという状況ではあるが、建設地の原単位に合わせるのか、それ以外に合わせるのかも協議の 1 つにはなるのではないかと。今回の施設は高

根沢町に建設されるのだという前提を持ったほうがよい。

- ・資源化率には、灰の資源化も含まれている。国で定義しており、それにより目標値等が設定されている。そのために、サーマルリサイクルなども含まれている。
- ・削減目標等については、議論はしたが結論は導けない。再度検討する必要がある。
- ・策定する計画が実行計画となっていくようにしてほしい。また、これは各市町に御願いすることなのか、それとも組合が主体で行うことなのか。役割をきちんと整理しておくべきである。
- ・スラグの利用については、事前に2市2町に意見を聞く必要がある。
- ・収集・運搬計画の足並みがそろわなければ、いろいろなケースを検討したところで無駄になってしまう。分別にも係っており非常に大事な部分である。
- ・将来の分別収集区分で、発泡スチロールが記載されていない。発泡スチロールをどう組み込んでいくのか検討してほしい。
- ・将来の分別収集区分は、もう少し議論を深めていきたい部分である。はっきりしていない部分も多くあり、各市町やリサイクル業者などを含めて検討していく。
- ・危機管理体制の整備については、災害ごみ等について考慮し、適切に整備しておく必要がある。
- ・住民と行政の基本的役割があるが、住民の役割ではしめすと断言しているが、行政の役割ではどうしても解釈できる文章になっている。